

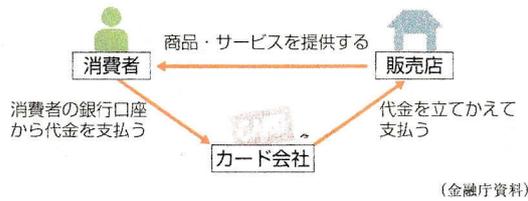
契約と消費生活

- 消費行動の主権者は消費者であるとする考え方を(消費者主権)という。
- 当事者間での合意のことを(契約)といい、誰とどんな(契約)を、どのような方法で結ぶのかは、基本的に自由である。
- 消費者が売り手より不利な立場にあるためにおこるさまざまな問題を(消費者問題)という。
- どの商品をどれだけ買うかは、消費者の意思と判断で決めるものである。このように、消費行動の主権者は消費者であるという考え方を何といいますか。(消費者主権)
- 売り手と買い手の合意のもとで行われる商品の売買のように、当事者の自由な意思によって結ばれる約束を何といいますか。(契約)

右の資料のように、消費者が売り手より不利なことから生じる消費者の不利益の問題を何といいますか。
(消費者問題)

- 医薬品や食品による健康被害：消費者は人間なので、生命や身体への被害は取り返しがつかないため、売り手より不利。
- 欠陥住宅や欠陥製品：消費者は売り手より情報量が少ないので不利。
- 詐欺：消費者は売り手より交渉力に劣るので不利。

(1) 右の資料は、クレジットカードを利用した買い物のしくみを表している。



資料を参考にして、クレジットカードを利用して買い物をする際、注意しなければならないことを「見通し」「代金」「収入」の3語を使って書きなさい。

(代金が後払いなので、今後の収入の見通しに見合う買い物をすること。)